

令和6年度北本市立 北小学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		外部評価	
			A+B ／ 全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	○校務分掌について 年度当初には分掌担当者が集まる機会はあるが、期によってその集まる機会がないところもある。そのため、年度末には集まり時間を確保してほしい。	A	A
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあつている。	95	○生徒指導について より具体的な生徒指導対応となるように、目標を設定してほしい。	A	A
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・提示・活用し、随時的に、かつ迅速に対応している。	100	一関係者同士のケース会議のもと、短期目標・長期目標を決定し共通理解も、具体的な支援を検討して指導に当たる。	A	A
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあつている。	95		A	A
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち遅れて、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100	○学校課題研究について 学校課題研究が点での研修にしかになっていない。	A	A
	6	教職員は、学力の向上を目指し、児童生徒の笑顔に基づいて日々の授業改善に努めている。	95	北小タム・日々の授業・研究授業がつながるように、全員で共通理解の下、研修に当たれるように、年度当初は本年度から次年度までの研修計画を示し、組織的・計画的に進めてほしい。	A	A
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあつている。	100	一研修主任・研究主任を中心に年度当初に見通しの持てる計画を立て進め管理を行う。	A	A
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	95	○学力向上について 同学年内で学力の差がある。学年としての目標、学習内容、教材の取り扱い方を学年会でしっかり話し合うべき。	A	A
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	75	一学年会の時間を確保し、学年としての取組をしっかりと話し合う。また、同学年や他学年の授業を参観する時間を確保し、指導方法を共有することで教員の授業力を向上させる。さらに、自主学習や振り返りワークでの学習の姿を提示し、全校に共有する場を作る。さらに、「どうして、どのように」と考えを発表できるような発問を教師が意図的に行う。	B	B
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に正しい正しい言葉遣いができる。	80	一各学年年番のあいさつ週間を設定する。	B	B
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	100	○言葉遣いについて 友達に対する言葉遣いと教職員に対する言葉遣いが同じ児童が多い。また、名前の呼び方「○○さん呼び」ができていない児童が多い。その都度指導が行き届いていない。教職員も正しい言葉遣いを心がける。また、名前の呼び捨ては教職員も合わせてしない、させないことを徹底する。	A	A
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100		A	A
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	80	○運動や体づくりをする時間がない。一開かれた時間の中で効率的に体力向上する指導方法を身に着ける。休み時間の外遊びを推奨する。基本的に待機やふれ遊びを継続していく。委員会を中心に「○○教室」を開催する。校内外掲示に体育コーナーを設置して、走った距離を見える化できる装置を作る。	B	B
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようとして努力している。	100	一体育館を有効活用する。業間自主的に活動させる。	A	A
保護者・地域・学校連携	15	本校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	75	○PTA活動について PTAと話し合う機会がないので、活動自体がどのようなものかをもっと理解していない。どのような活動をしているのかを知る機会が欲しい。一話し合う場を設定することが望ましいので、PTAがどのような活動をしているのかをかわるがわるにプリントのようなものを作成し配布する。	A	B
	16	本校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や授業・課題等について情報提供している。	100		A	A
	17	本校は、保護者や地域と連携し不審者対策のハットルや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	90		A	A
	18	本校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	95		B	B
令和6年度指導の意識(方針)・意気込みをくむ教育の推進	1	教職員は、道徳授業の充実を図っている。(自分と他人を大切にすることの徹底)	100	○言葉遣いについて 教職員の言葉遣いが気になる。入学時の資料として名前を○○さんと呼ぶきまりを伝えているが、できていないと思う。授業中のやりとりももっと言葉大切にしたい。子どもたちが自らするボスターなど、正しい表記(言葉遣い)を意識したりしていくこと。	A	A
	2	教職員は、児童へ気持ちを届ける挨拶の励行を行っている。	95	一児童の名前呼びに関する決まりやルールを記したものが新入生用の資料のみであるため年度当初に配布する教職員間の共通理解事項に記載し、共有させる。	A	A
	3	教職員は、言葉遣いに関する児童を徹底している。	80	一言葉遣いについては、全教職員が共通理解を醸成し、自らの言動に気を付ける共に児童に対して、その都度指導する。	A	A
	4	教職員は、清掃指導の徹底(清掃方法、反省会の統一)を行っている。	80	○清掃指導について 掃除(廊下の拭き方・トイレ掃除のやり方など)細かいところまで指導し、見届けが必要。	A	A
	5	教職員は、生徒指導・教育相談体制の充実(共通理解の徹底)を図っている。	90	一清掃指導について 一清掃指導について 一学年に適切な指導方法の共通理解を図り、統一して指導する。	A	A
	6	教職員は、hyper-Q調査を活用した居場所・実生活のある手帳づくりを行っている。	90	○生徒指導・教育相談体制について 不登校児童や保護者の付き添いが必要な児童への支援について、担任の負担が大きすぎると感じる。教育支援コーディネーターを中心に組織的に、長期中期的に目標を決めて、全教職員が対応に当たる必要がある。	B	B
	7	教職員は、スクール学級児童と通常学級児童の交流学習の充実を図っている。	85	一教育支援コーディネーターを中心に教育相談委員会等を活用し、可能な支援について具体的に取り組んでいく。	A	A

・保護者向けに出した内容については、周知と実施が必要なのだと思います。一部の教職員の言動も「先生集団」として受け取られます。

令和6年度指導の重点（方針2） 様々な学力を培う学習指導の実践（事例）	8	教職員は、学習規律の確立（授業準備、姿勢、声量、返事、言葉遣い等）を行っている。	95	○学習規律について 概ねできているが、学年やクラスによって違いを感じる。話を聞く姿勢（体の向きを調える）や時間になってから話し出すなど、教職員の工夫も必要に感じている。 →教職員間で、児童の発達段階に応じた宮内・中央校区の学習のきまりの共通理解を図り、指導を徹底する。 最後まで話しくいつりと聞くことを意識させ、しつじりと取り組ませる力を育てる。	B	B	・礼儀正しく、特に話をよく聞く子たちです。小学校からの継続指導していただいたおかげと感じております。 ・児童が率先して発言できる授業が良いが、よく促して授業を進めている。 ・授業の終わりに必ず今日の大事なことを復唱するとさらに良い。 ・校区としての中心コンセプトとなっておりますが、先生方の指導陣の積み重ねであると感じております。 ・私への言葉遣いに驚いたことがあるので、それが他の大人へも同様に伝わっているとすると、この件はできていないとは思えない。また文章では「お子さま」「さきま」で呼称しているのであれば、本人達へ「さきま」で対応するべきと思う。個人的には、サービス業ではなく教育者側の立場としたら「お子さん」でよいと思う。北本市全校での認識であるなら地域性だと思うが、個人的には違和感がある。
	9	教職員は、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫（協働的な学びの充実）を行っている。	100	○学びの振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	10	教職員は、「正解」ではなく「自ら考え」を促す授業を行っている。	100	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	11	教職員は、「学びの振り返り」に重点を置いた授業を行っている。	95	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	12	教職員は、エビデンス（アンケート、各種学力・学習調査等）に基づいた指導方法の工夫改善を図っている。	100	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	13	教職員は、学力向上対策としての北小タイムの活用を行っている。	100	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	14	教職員は、家庭学習に係る取組の充実（「手引き」活用と「振り返り週刊」の実施）を図っている。	95	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	15	教職員は、運動の特性や能力を伸ばせる体育授業の充実を図っている。	95	○体育授業の充実について 他の職員の体育の授業をみる機会が少ないので、今年度内・ブッキング内で授業を参観できる機会を設ける。	A	A	
	16	教職員は、体力向上対策としての北小タイムの活用を行っている。	95	○体力向上対策としての北小タイムの活用について 朝の活動の縮小のため、体力を向上するまでの回数がとれない。 →北小タイム（体力）の内容を精選する。持久走を多めにする。 あ北小こ身体操の一つ一つの運動の意味をを意図して取り組ませる。	A	A	
	17	教職員は、防災意識を高める避難訓練の工夫（実動性のあるマニュアルと活用）を行っている。	95	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
	18	教職員は、命を守る自助の力を高める安全教育（閉門機一時停止、ペディック）を行っている。	90	○安全教育について 繰り返し指導は行っているが、特定の児童が身についていない。 →教職員全体で声をかけていくことと、時間にゆとりをもった学校生活を組み立てていくことで防災意識を高める。また、昇降口や渡り廊下の施設は、引き続き徹底する。	A	A	
	19	教職員は、定期、臨時の安全点検の実施（多面的・多角的な視点）を行っている。	100	○安全の振り返りについて 授業の振り返り時間の確保が必要である。 →各授業で振り返りの時間を確保できるよう、授業時間短縮を図る。また、効果的な振り返りについて、研修等で学ぶ。 振り返りの視点を決め校内に提示などし、すべての教職員が活用する。	A	A	
令和6年度指導の重点（方針4） 教職員集団としてのチーム力の向上	20	教職員は、「縦・横・斜」の徹底を行い、本校は、組織で対応する体制の整備を行っている。	95	○「縦・横・斜」の徹底について 学年間の連絡調整がもとめられる。学年会や毎日の会話が大切である。 →学年会の内容の精選と、縦・横・斜しやすい環境を醸成する。	A	A	・日課表の見直しはお疲れ様でした。いい効果を生むことを期待します。 ・先生方は、自分に厳しいところがある。もっと自分の仕事に誇りをもち自信持てほしい。
	21	本校は、学校課題研究に対する組織的な取組みを行っている。	90	○学校課題研究について 指導案作成の段階で指導者に指導助言をいただいていたように、何となく指導助言をいただいているのか共有がなされないと、授業者のみの研修となってしまう。どのような授業にしてい、授業研究部を中心に検討したうえで指導者から指導をいただき、全教職員に還元していくこととする。	A	A	
	22	教職員は、互いに尊敬し、ともに高めあえる職場づくりを行っている。	100	○学校課題研究について 指導案作成の段階で指導者に指導助言をいただいていたように、何となく指導助言をいただいているのか共有がなされないと、授業者のみの研修となってしまう。どのような授業にしてい、授業研究部を中心に検討したうえで指導者から指導をいただき、全教職員に還元していくこととする。	A	A	
	23	本校は、ライフステージに応じた研修機会の設定を行っている。	90	○学校課題研究について 指導案作成の段階で指導者に指導助言をいただいていたように、何となく指導助言をいただいているのか共有がなされないと、授業者のみの研修となってしまう。どのような授業にしてい、授業研究部を中心に検討したうえで指導者から指導をいただき、全教職員に還元していくこととする。	A	A	
	24	本校は、教育技術や思いを若手に引き継ぐ体制の整備（授業公開時間の充実）を行っている。	95	○教育技術や思いを若手に引き継ぐ体制について 学年間では技術の伝達は行っている。授業公開時間は若手にはもったあつたほうがない。そのため組織的に補充計画もたて、見に行く機会を設ける必要がある。 →計画的・組織的に授業を参観する期間を設け、技術の向上を図る。	A	A	
	25	本校は「学校における働き方改革」の本質に迫った業務改善の実施を行っている。	90	○働き方改革の本質に迫った業務改善について 例から脱却し、職員室ホワイトボード、連絡、日報、日誌、出欠黒板など、情報が二重三重になっているところが多い。日程についてはグループカレンダーで共有できれば良いのではないかな。	A	A	
	26	本校は、「教職員事務局」を継続するための取組をしている。	100	○働き方改革の本質に迫った業務改善について 例から脱却し、職員室ホワイトボード、連絡、日報、日誌、出欠黒板など、情報が二重三重になっているところが多い。日程についてはグループカレンダーで共有できれば良いのではないかな。	A	A	
	27	本校は、「小中一貫教育」を基盤とした教育活動の推進を行っている。	90	○小中一貫教育を基盤とした教育活動の推進について 「連携」と「一貫」の捉えを明確にするように。例えば、教育交流金は「連携」、号令をそろえるは「一貫」である。本アンケートでも言葉が混在している。それぞれでの取り組みが何の目的で行っているのかを明示していくようにするとよい。 →一言の確認と教職員内での共有をしていく。	A	A	
	28	本校は、PTA執行部との連携を図っている。	90	○小中一貫教育を基盤とした教育活動の推進について 「連携」と「一貫」の捉えを明確にするように。例えば、教育交流金は「連携」、号令をそろえるは「一貫」である。本アンケートでも言葉が混在している。それぞれでの取り組みが何の目的で行っているのかを明示していくようにするとよい。 →一言の確認と教職員内での共有をしていく。	A	A	
	29	本校は、課題解決に向けた関係機関（SC、SSW、市役所など）との連携を図っている。	95	○小中一貫教育を基盤とした教育活動の推進について 「連携」と「一貫」の捉えを明確にするように。例えば、教育交流金は「連携」、号令をそろえるは「一貫」である。本アンケートでも言葉が混在している。それぞれでの取り組みが何の目的で行っているのかを明示していくようにするとよい。 →一言の確認と教職員内での共有をしていく。	A	A	
	30	本校は、幼保小連携を行っている。	75	○小中一貫教育を基盤とした教育活動の推進について 「連携」と「一貫」の捉えを明確にするように。例えば、教育交流金は「連携」、号令をそろえるは「一貫」である。本アンケートでも言葉が混在している。それぞれでの取り組みが何の目的で行っているのかを明示していくようにするとよい。 →一言の確認と教職員内での共有をしていく。	A	B	
来年度の重点目標（共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて）				学校運営協議会の総評			
・学校課題研究や生徒指導対策等、より組織的な取組となるように個々の役割を明確にする。また、放課後に定期的な話し合いの時間を確保する。 ・年度当初に全教職員であいさつや言葉遣いなど、挨拶面での指導についての徹底を再確認する。また、全校朝会等で児童全体にも共通認識させる。 ・児童が全力で活動できる運動の場や時間を意図的に作る。 ・宿題の量を一律ではなく個別最適にするなど、家庭学習と宿題の出し方を学校全体で再確認する。 ・児童が最後まで聞き、最後まで読み、最後まで考えられるような取組を推進する。				・授業参観の機会をあたえていただきありがとうございます。先生方の授業に向けての努力がよく分かります。また、児童の生き生きとした様子が見え、学校が見え、直にあって居心地のいい場所であることが分かります。 ・北小の先生方は、和泉校長先生のもと、とても明るく元気で前向きに色々取り組まれていると感じています。来年度も変わらず元気に指導して頂きたいです。いつもありがとうございます。 ・最近、本校では「情報共有」と「行動連携」の話をよくいたします。北小学校はそのあたりは抜かりなく、徹底されていることが伝わってきます。これからの進むべき方向と進め方を確認し、みんながしあわせな学校づくりを推進し続けることご期待いたします。同一校区として、姉妹校として、成長してまいりたいと思います。 ・一年を通して児童、先生を見させていただき、目指す学校像に向かって明確に進んでいると感じました。一方で、先生方の負担が増えないか心配に思います。改善できる所を改善し、保護者と学校、地域が一体となってこれからも子ども達を見守っていければと思います。 ・こちらの協議会も、当初から長く関わらせて頂き、北小学校の近隣の卒業生として、また仕事柄、卒業後の進路先として、大変お世話になってます。またここ数年、本校の仕事と同時に公の仕事もかなり増え、時間を作れなくなってしまう、参加率が悪く、大変申し訳なく感じています。地域と共に歩む北小学校の立場としても、子どもに關わる仕事ゆえに、お互いに協力関係を作ることには、近年ますます重視される幼保小連携の意味でも地域社会にも有効だと感じています。地域の子どものより良い教育環境を進める上で、引き続き協力させて頂きたいと思っています。			

北本市立 北小学校 学校運営協議会（敬称略）			外部評価実施日		
会長 清水 宏典	委員 野本 慶人	第1回 令和 6年 5月 14日（火）			
委員 大保木 道子	委員 和泉 健	第2回 令和 7年 1月 31日（金）			
委員 菅野 由香	委員 磯部 元孝	第3回 令和 7年 2月 25日（火）			
委員 山本 浩之					
委員 若山 清和					
委員 坂垣 修司					

- ※「自己評価の適切さ」について
A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である
- ※「改善に向けた取組の適切さ」について
A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる
C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する
- ※学校の取組に関する評価と今後の改善点等について
・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。
・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった（低かった）項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。
- ※その他の重要な留意点
・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。（2枚以上可）
・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。
・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めてください。
・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。